

平成27年度 水質事故発生状況

・魚死亡事故

| 発生月<br>月日 | 水系     | 支川等 | 市町村  | 原因者等 | 事故の概要   |
|-----------|--------|-----|------|------|---|
| 4<br>13   | 千歳川    | -   | 湯河原町 | 不明   | 住民から湯河原町に川で魚が死んでいるとの連絡があった。町が現場を確認し、死亡したアユの稚魚13匹を回収した。現場河川の水質の簡易分析を行った結果、異常は無く、現場周辺を確認したが原因は特定できなかった。新たな死亡魚は確認されなかったことから、本件は原因不明として収束した。  |
| 6<br>29   | 早川     | 須雲川 | 箱根町  | 交通事故 | 未明に箱根新道でトラックの横転事故が発生し、トラックが県道へ転落、炎上した。箱根町の消防が、泡消化剤を計48L使用した。トラックはポリエーテルグリコール 200L×80本を積載しており、須雲川経由で早川に流出し、一部で白濁が見られた。事故現場付近にオイルマットを敷設して流出を抑えるとともに、バキュームによる回収を行った。市町及び県西Cは、現場より下流でアユ31匹の死亡を確認したが、早川合流地点以降では確認されていないことから、大量のポリエーテルグリコールが短時間に流入したことによる一時的な影響と判断した。<br>翌日現場を確認したところ、須雲川は消化剤の泡の影響により、一部発泡が確認されたが、それ以外に異常はなかった。早川合流以降は、本川側からの影響で通常よりも濁っている状況だった。<br>その後、死亡魚等も確認されず、河川への影響は見られなかったことから、本件は収束とした。 |
| 8<br>4    | 森戸川(乙) | -   | 葉山町  | 不明   | 町民から葉山町環境課へ、森戸川本川の長柄橋付近でコイが死亡していると通報があった。葉山町及び横須賀土木事務所が現場確認したところ、コイやウナギなどの魚が約20匹死亡していた。死亡魚は既に腐敗しており、死んでからかなり時間が経過している様子であったため、横須賀土木が死亡魚を回収した。また、現場ではコイの生存も確認された。後日、葉山町が現場を確認したところ、異常は確認されず、葉山町は拡大のおそれが無いと判断し、本件は原因不明として収束した。  |
| 9<br>29   | 森戸川    | -   | 小田原市 | 不明   | 市民から小田原市環境保護課へ、森戸川第二森戸橋上流の事業所前の水路において、魚が死亡していると通報があった。市の水道局及び環境保護課が現場確認を行ったところ、魚が約100匹程度死んでいるのを確認した。市の水道局が簡易分析を行った結果、DO：7～8、pH：8であった。死亡魚は既に死後数日経過していたため、分析は不能と判断した。現場では水量が少なかったため、酸欠により死亡したのではないかと推測されたが、原因の特定には至らなかった。以上で、本件は原因不明として収束した。  |
| 9<br>30   | 森戸川    | 山岸川 | 大井町  | 不明   | 住民から大井町生活環境課へ、事業所の向かいの水路でドジョウ類の魚が20～30匹程度死亡していると通報があった。大井町、県西地域県政総合センター、広域水道企業団、小田原市が現場で魚死亡を確認した。水路の水を見たが、においや濁りなどは確認されなかった。企業団が水路の水及び水路へ流入する湧水を採水し簡易分析を行った。簡易分析の結果、湧水：DO 1.5、水路：DO 6.3、pH 7.3であった（大井町によると、湧水については普段の採水結果に近い数値である）。現場下流の水路では生存魚が確認された。原因としては、酸欠による死亡ではないかと推測された。以上にて、周辺の影響も見られないことから、本件は収束  |

| 発生月<br>月日 | 水系     | 支川等    | 市町村  | 原因者等 | 事故の概要   |
|-----------|--------|--------|------|------|---|
| 10<br>21  | 相模川    | 貫抜川    | 海老名市 | 工事   | 近隣住民からの通報を受けた警察から広域水道企業団へ中新田1-14付近の中央排水路にてコイが死亡しているという連絡があった。企業団が現場確認をしたところ、コイ、ザリガニ等の死亡を確認した。市及び県央地域県政総合センターが現場付近を調査したところ、海老名高校の耐震補強工事により、排水ピット内に溜まっていた汚水を雨水排水樹に流してしまったことが判明した。原因者により、死亡魚を回収し、雨水樹に残っていた汚水はバキュームにより回収し処分した。水産技術センター内水面試験場において死亡魚の分析を行った結果、病気による死亡の可能性は低いことが確認された。海老名市と連携して県央Cが原因者に対して、事故原因の究明と再発防止について、指導を行った。以上にて、河川への影響はこれ以上見られないと判断し、本件は収束した。 |
| 11<br>3   | 酒匂川(甲) | 要定川・狩川 | 南足柄市 | 事業者  | 住民から南足柄市環境課へ、千津島1868付近の水路から悪臭がするとの連絡があった。悪臭の原因としては、付近の事業所で火災が起き、消火作業によって流出した汚水が用水路で腐敗したものと判明した。また、水路ではドジョウなどの水生生物の死亡が確認された。県西地域県政総合センターが事業者に対して死亡魚及び汚水の回収を指導し、事業者は土嚢設置やバキュームにより流出した汚水を回収した。回収した汚水は事業所内の処理施設により全量処理を行った。その結果、用水路もきれいになっており、河川への影響はこれ以上見られないことから、本件は収束とした。  |
| 1<br>7    | 酒匂川    | 仙了川    | 小田原市 | 不明   | 住民から栢山交番に栢山2819付近の水路で魚が大量に死んでいると通報があった。通報後に小田原警察が現場の水路にて白濁及び小魚10匹程度の死亡を確認した。その後、県西地域県政総合センター及び小田原市環境保護課が現場へ向かったところ、無色透明で白濁の痕跡は確認できなかった。飯泉取水管理事務所が簡易分析を行ったが、原因の特定には至らなかった。その後、市が死亡魚を回収した。河川への影響はこれ以上見られなかったため、本件は原因不明で収束した。  |
| 3<br>8    | 酒匂川    | 要定川    | 南足柄市 | 事業者  | 住民から要定川と合流する水路でコイが10～15匹死んでいると通報があり、南足柄市環境課が現場において、死亡魚を回収した。市の調査では、現場周辺では清掃活動を行うために水路の水門が閉じられており、事故発生時の水路は通常よりも水かささがさらに少なくなったことから、魚が死亡したと考えられた。事業者に注意喚起を行うとともに、その後新たな魚死亡が確認されないことから、本件は収束した。  |